

丹波市路線バス社会実験

バス通学モニター(中高生及び保護者) アンケート調査結果報告書

令和6年9月

丹波市地域公共交通活性化協議会

CONTENTS01 概要

●実験概要

丹波市の公共交通について有識者や交通事業者、住民代表等で検討する「丹波市地域公共交通活性化協議会」では、令和5年3月に「丹波市地域公共交通計画」を策定し、バス路線を地域のために将来に渡って維持すべき基幹交通ネットワークと位置付けています。

- ▶ 目 的 「丹波市地域公共交通計画」に基づくバス路線の再編を目指し、
 - ①野瀬線の増便による中学生、高校生の通学利用
 - ②市島・美和地区への路線新設による統合小学校への通学支援
 - ③市島地域から医療センターへの直行便⇒上記の複数の移動需要を満たすバス路線として、延伸及び新設による社会実験を実施
- ▶ 手 法 ①野瀬線について朝夕1便ずつ追加(6時台、16時台)、②③野瀬線の追加系統を市島地域に延伸する
- ▶ 期 間 令和6年4月1日(月)～令和6年7月31日(水)【月～金曜日運行・土日祝日運休】

●通学モニター募集概要

- ▶ 対象 **【中学生】**
 - 野瀬、栢野、広瀬、松森、上三井庄自治会の生徒
 - 片道6km以上(※1)の通学距離の生徒 ※1 丹波市遠距離通学補助金等交付規則に基づく**【高校生】**
 - 最寄りバス停から黒井駅までのバス運賃が380円以上の区間に居住する高校生(※2)
 - ※2 次の①、②いずれかに該当する生徒
 - ①「黒井駅」バス停まで路線バス乗車の場合…「野瀬」～「三尾登山口」バス停が、自宅最寄りのバス停の方
 - ②野瀬線を利用して「黒井駅」バス停下車後、鉄道を経由して再び路線バスに乗り、氷上西高等学校まで通学されている方(予定の方)
- ▶ 該当者 **【中学生】 19名 【高校生】 42名**

CONTENTS01 概要

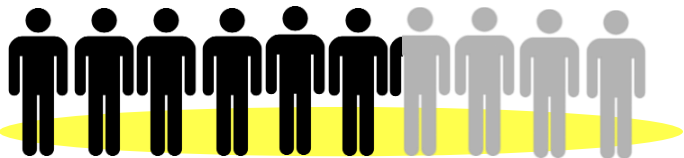
●通学モニターアンケート概要

- ▶ 該当者 【中学生】 19名 中1▶7名 中2▶6名 中3▶6名
【高校生】 19名 高1▶5名 高2▶7名 高3▶7名
【保護者】 29名 (家庭数)

- ▶ 回答期間 令和6年7月26日 ~ 8月16日

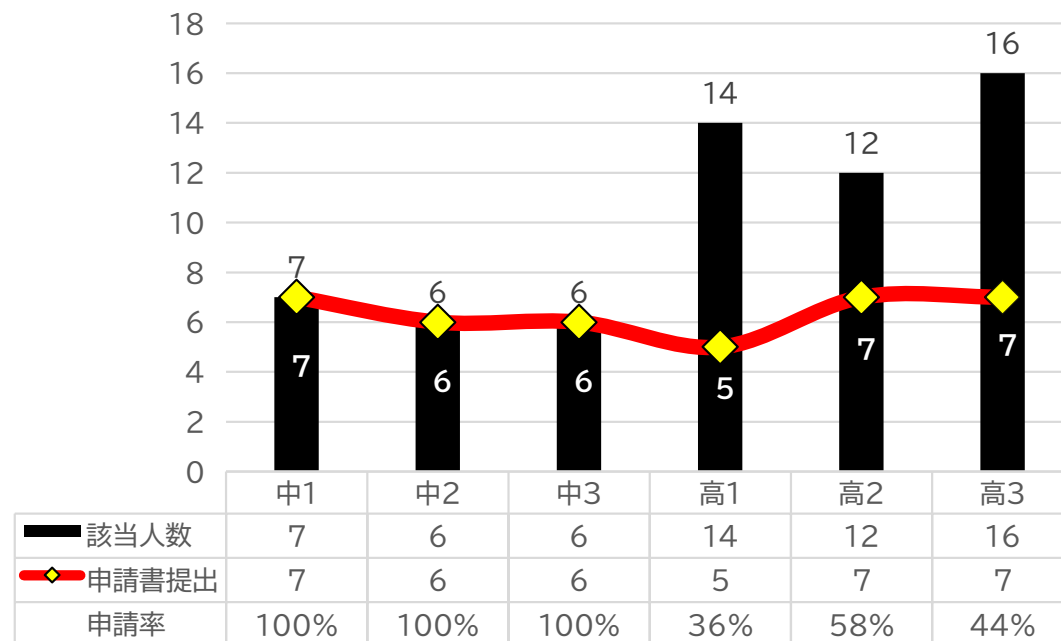
- ▶ 回答方法 オンラインアンケート(LoGoフォーム)、アンケート用紙配付

62%の中高生が通学モニターに



	該当人数	申請書提出	申請率
中1	7	7	100%
中2	6	6	100%
中3	6	6	100%
高1	14	5	36%
高2	12	7	58%
高3	16	7	44%
合計	61	38	62%

▶通学モニター申請率 ■ 該当人数 ◆ 申請書提出

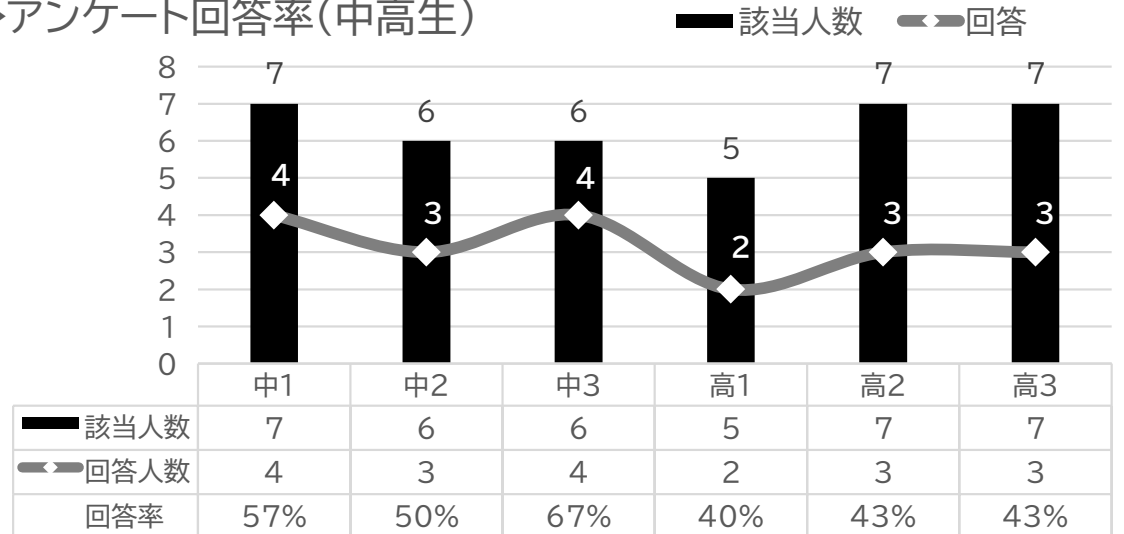


CONTENTS02 アンケート回答数(中高生)

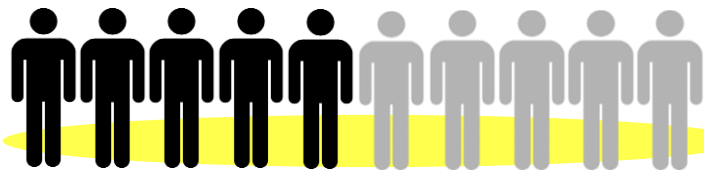
■回答数及び回答割合

	該当人数	回答人数	回答率
中1	7	4	57%
中2	6	3	50%
中3	6	4	67%
高1	5	2	40%
高2	7	3	43%
高3	7	3	43%
合計	38	19	50%
保護者	29	19	66%
合計 (中高生&保護者)	67	38	57%

▶アンケート回答率(中高生)



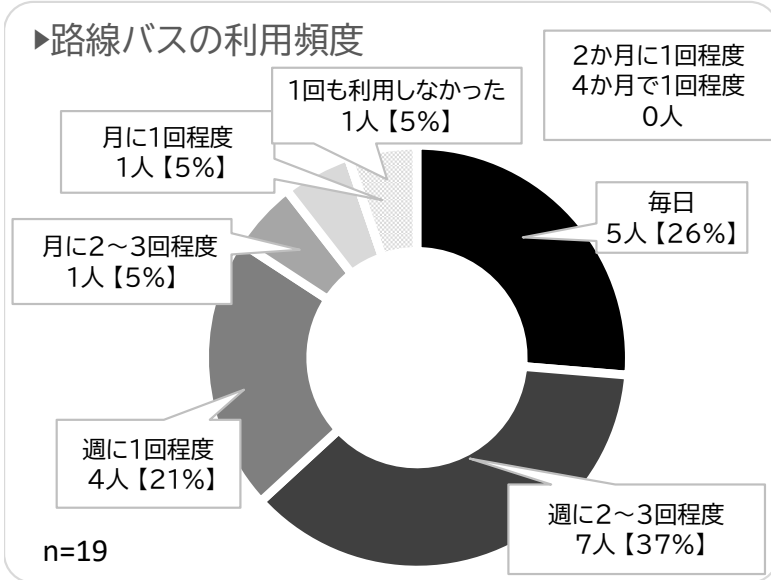
50%の回答率



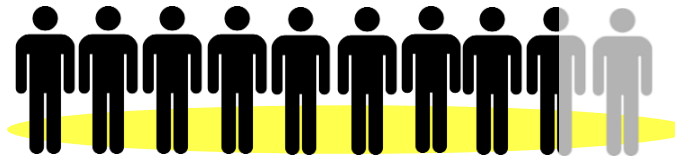
- ・中高生だけでみると、モニター参加者38名に対し、アンケート回答数19名であった為、モニター参加者の半数の方がアンケートに協力していただいている。
- ・中高生が社会実験モニターとして積極的に参加してくれたことによって、中高生の多様なニーズや意見を集めることができた。
- ・路線バス通学モニター期間を通じ、通学モニターご本人のご家族含め、地域のより多くの方が地域の公共交通に関心を持ったことがわかる。

CONTENTS03 調査結果(中高生)

問2 ■4月～7月のあなたの路線バス利用頻度を教えてください。

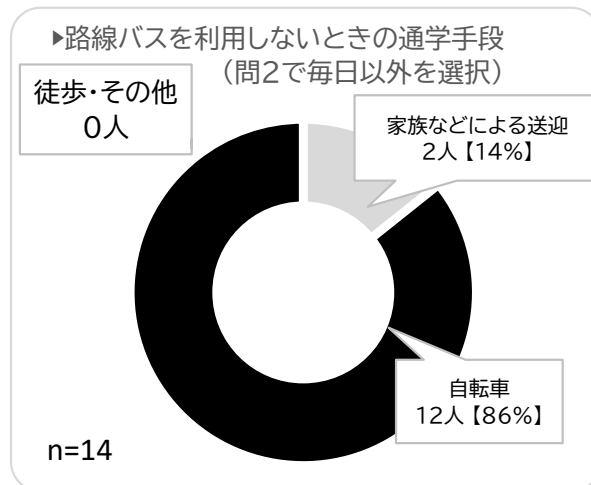


- ・19人中16人は週1回以上路線バスを利用している。
- ・実験期間中(4月～7月)の間に、19人中18人が乗車している。

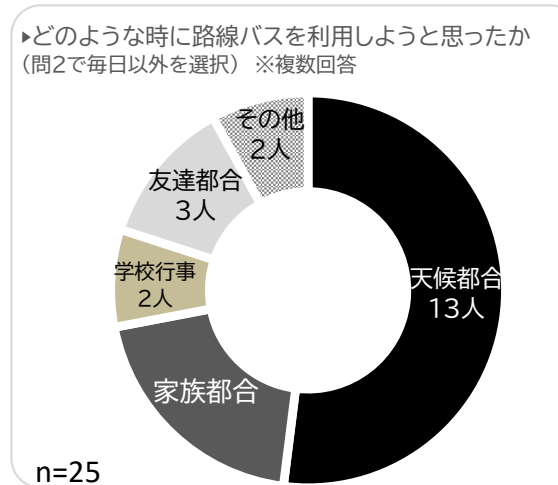


84%は週1以上乗車

問3-1 ■路線バスを利用しないときは
どのような手段で通学していますか？
(問2で「毎日」以外を選択された方)



問3-2 ■どのような時に路線バスを
利用しようと思いましたか？
(問2で「毎日」以外を選択された方)



・路線バスを毎日利用しなかった方は、
天候都合でバスと自転車を
使い分けていることがわかる。



CONTENTS03 調査結果(中高生)

問4-1 ■路線バスを利用することでよかった点がありましたか？（問2で「1回も利用しなかった」以外を選択された方）

・楽に通学出来た	・通学が楽になった
・体力を使わずに登校できた	・登下校が楽になった
・楽	
・送る人の負担が減った	
・家の人に迎えに来てもらう必要がなくなったので、負担が減った	
・親に送迎してもらわなくて良くなって親の時間をとらなくてよかった	
・バスの中で勉強が出来た(車内が広いから)	
・バスの中で勉強する時間が出来た	
・10分程度、準備時間に余裕ができた	・短時間で移動できる
・通学時間をだいぶ短縮できる	
・学校に行く用意をする際、いつもより時間に余裕があってよかった	
・天気が悪いとき安心して移動が出来る	・雨の日にチャリで行かなくて済む
・天気が悪い日も快適に通学出来た	・雨の時でも気にせず行ける
・雨降りや暑い日は助かった	
・急な雨や気温が高い日でも熱中症などを気にすることなく快適に通学できる	
・友達と話しながら通学できる	・帰ってきてからの疲れが少なくなる
・楽器を持っていく必要があり、バスが出るまでは車で春日中学校まで送ってもらっていたのですが、バス停まで車で送るだけの方が、やはり春日中学校まで送るよりも楽だと親に言われました。また、車で春日中学校まで行き、学校内に入ると、自転車に衝突する危険があるのですが、バスだとそれを防げることが良かったです。	

CONTENTS03 調査結果(中高生)

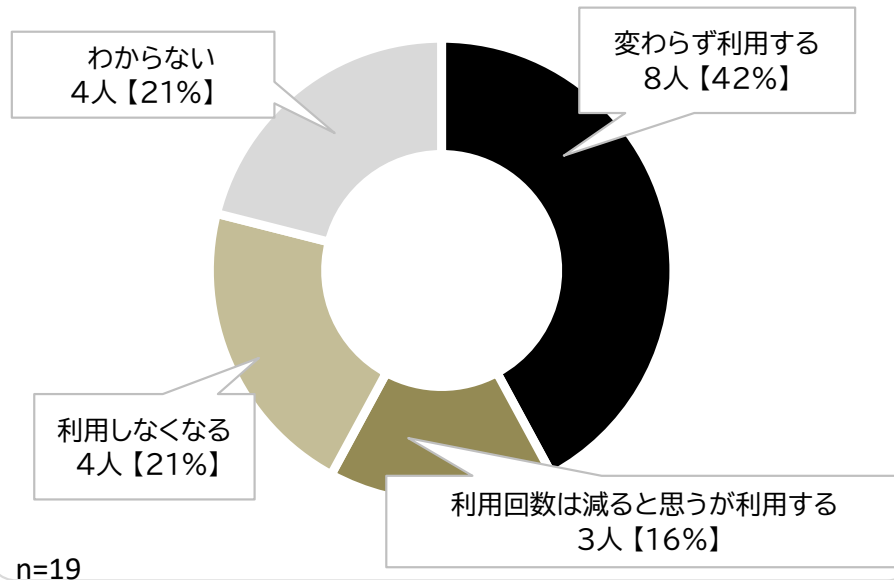
問4-2 ■路線バスを利用することによって何か変化はありましたか？（問2で「1回も利用しなかった」以外を選択された方）

・時間を気にして生活するようになった	
・朝少し早く起きるようになった	・早く起きるようになった
・朝出る時間が遅くなった	・家を出る時間を遅くできた
・家を出る時間が自転車の時よりも遅くなったその分、家でゆっくりできる	
・家を出る時間がそれまでよりも5分ぐらい早くなった	
・バスの時間に合わせて電車に乗ったり、家を出るようになった	
・遅刻しそうな回数が減った	・遅刻しない(したことないですが)
・天気を気にしなくて済んだ	
・通学楽ちゃん	
・親の負担を減らせた	
・家からバス停までの距離を歩くので、運動不足解消につながった	
・友だちと話することができる	

・電車に着くのがギリギリになった
・特になし
・変化なし

問5 ■あなたはこれからも路線バスを利用すると思いますか？

▶これからの路線バス利用について



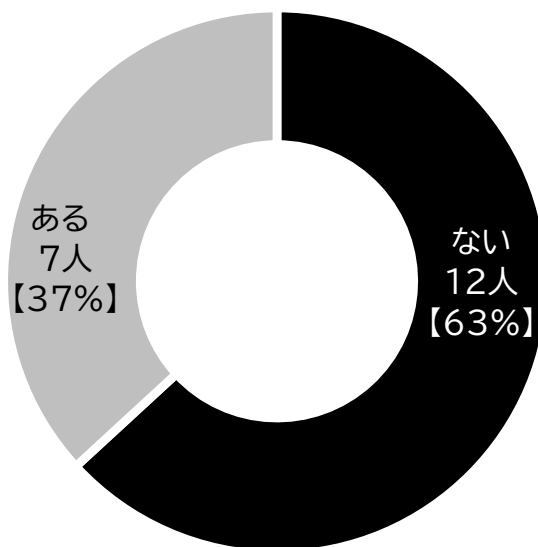
問6 ■今後の路線バス利用について、なぜそのように考えるか。(問5で利用回数は減ると思うが利用する」「利用しなくなる」を選択された方)

【高校生】・補助の対象外となる
【高校生】・補助の対象外となる
【高校生】・定期の更新をしないので、どうしてもという時以外は自転車か送迎してもらうようになる
【高校生】・自転車で通学することや、バスのない時間にも帰れるため帰りのバスがない
【高校生】・お金がかかるから(高い)
【高校生】・模試の日に電車の時間に遅れ、遅刻するところだったから
【中学生】・自転車を利用する
【中学生】・2学期からは自転車通学になるから

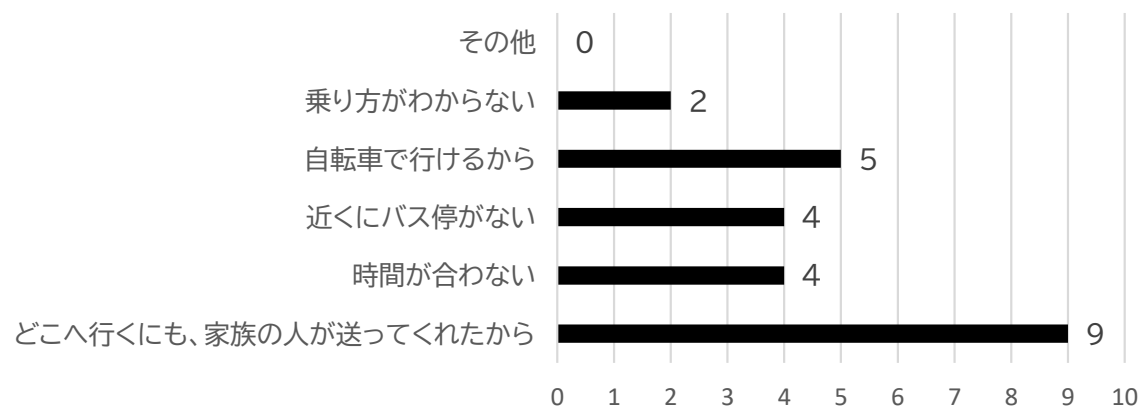
CONTENTS03 調査結果(中高生)

問7 ■あなたは2024年3月以前に路線バスに乗車したことはありますか？ 問8 社会実験開始前の路線バス利用の有無について（問7で「ない」を選択された方）

▶社会実験開始前の路線バス利用有無



▶社会実験開始前のバス利用の有無について （問7でないを選択）※複数回答可



【利用あり】

・利用経験ありの9名は、問9の「通勤、通学、通院など、自分自身にとって重要な交通手段」の設問にし、「非常にそう思う」が5名、「まあそう思う」が2名と答えている。そのことから、公共交通は移動手段の選択肢となっていることがわかる。

【利用なし】

・中高生及びご家族にとって、自転車で行ける範囲は自転車で行き、行けない範囲については、ご家族の送迎であることがわかる。
→公共交通が移動手段の選択肢となるようにする必要がある。

CONTENTS03 調査結果(中高生)

問9 ■あなたが感じているバス路線の理由や存在価値を5段階で評価してください。

	非常に そう思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
通勤、通学、通院など、 自分自身にとって重要な交通手段	9	8	1	1	0
自動車を運転できない人にとって 重要な交通手段	10	8	0	1	0
将来、自分が自動車など、 運転できなくなった場合の 重要な交通手段	9	6	2	2	0
バス利用は、 交通渋滞の緩和に効果がある	3	6	7	3	0
バス利用は、 交通事故の減少に効果がある	4	8	6	1	0
バス利用は、 CO2等排出量の削減に効果がある	4	7	7	1	0
普段はバスを利用していないが、 いつでも利用できるという 安心感がある	5	8	3	2	1
乗車中に本を読むなど、 目的地まで快適に移動できる	8	6	4	0	1
バス路線の存在自体が、 まちの活性化につながる	3	8	5	2	1

路線バス利用のメリットや意義を
環境問題や交通問題で考えた時には、
メリットや意義をあまり感じていないことが
わかるが、自分事として考えた時には、
路線バスは必要だと感じている中高生が多い。

▶路線バス利用のメリットや意義

通勤、通学、通院など、
自分自身にとって重要な交通手段

自動車を運転できない人にとって
重要な交通手段

将来、自分が自動車など、
運転できなくなった場合の重要な交通手段

バス利用は、
交通渋滞の緩和に効果がある

バス利用は、
交通事故の減少に効果がある

バス利用は、
CO2等排出量の削減に効果がある

普段はバスを利用していないが、
いつでも利用できるという安心感がある

乗車中に本を読むなど、
目的地まで快適に移動できる

バス路線の存在自体が、
まちの活性化につながる

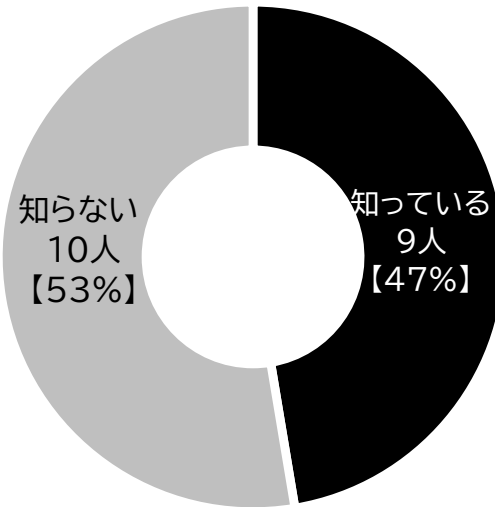
- 非常にそう思う
- まあそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

n=19

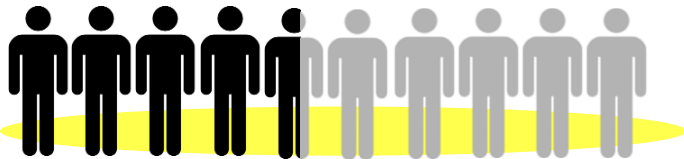
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

問10 ■市内バスの移動経路や発着・乗換時刻をインターネットで検索できることを知っていますか？

▶神姫バスNaviについて



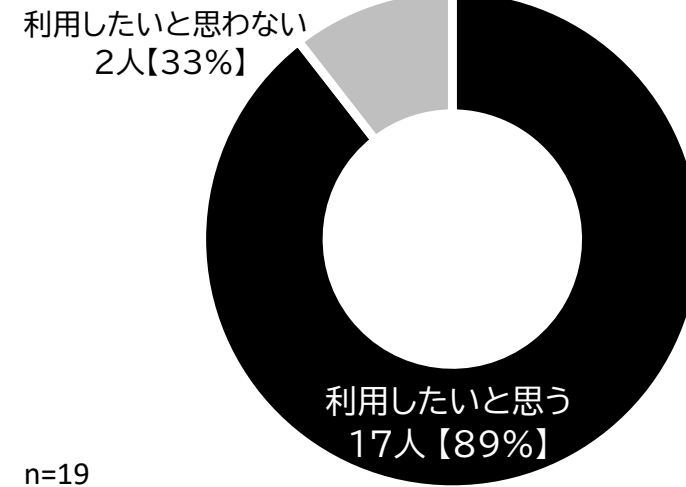
おおよそ半数



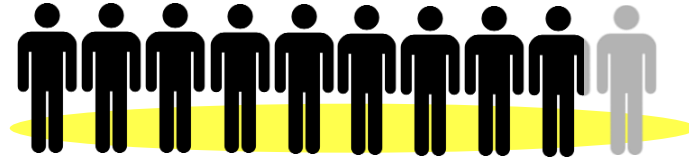
- ・通学以外にも多様な機会バス利用をしてもらうことで、アプリ利用が増え、認知度が高まることが期待できる。
- ・モビリティマネジメント等を通じ、バス路線は地域の将来の為維持すべき基幹交通ネットワークという認識を高める。

問11 ■通学モニターで参加していただいたバス路線を今後も利用したいと思いますか？

▶路線バスを今後も利用したいと思いますか？



89%が今後も利用したいと回答！



- ・路線バス利用のきっかけを大いに創出することが出来た。
- ・「利用しない」と回答した2名の方については、登下校の際に、バスと電車との接続がうまくいかないことがあった為、接続に余裕を持たせることを望まれている。

問12 ■通学モニターとして参加していただいたことで、路線バス通学や公共交通について、ご家族の中や友達同士で話題になったことについて

通学楽でした。バス大好き。

熱中症、梅雨など自転車で行くより安心して行けました。

バスがある時間帯で帰ってくると、家の人の負担がすごく減るので今後も続けていってほしいです。

短時間で移動できるのもありがたいです。

街の活性化になってとても良いと思う。

雨とか特に自転車での登下校がめんどくさかったから、路線バスはすごく助かった。

バスを降りるときに「ありがとうございました。」と言えるようになったし、運転手の方々も「気をつけて。」と言ってくれたのがすごく嬉しかったです。

いろんな運転手の方がいて、運転の仕方降りる場所等、様々な工夫をしてくださって乗りやすかったです。ありがとうございました。

高校生まで負担なく最寄駅まで行けたらもっと活用の幅が広がると友達と話しました。

朝は6時50分のバスに乗りたい。

黒井駅から野瀬までのバスの時間のことで、12時や14時、18時のバスがないため、バスに合わせて電車に乗らないといけないことがあった。

電車の時間に間に合うよう、駅の到着時間を調整してほしい。

バスの中に音楽を流してほしい

座れないときに掴むところがない時があったので、手すりを多くしてほしい。吊革を低くしてもらうか。

私の兄が大事な試験の日にバスが電車に間に合わなかったことがあり、どうしても交通の状況によりバスが遅れてしまうことがあると思うので、あと5分～10分ぐらい朝のバスを早くしたらいいのではないかと思います。

しかし、中学校に行く分にはとても使いやすかったなので、これからも使いたいと思っています。

1度だけ電車に間に合わなかった。タイミング悪く模試の日で遅刻するところだったから、余裕を持った運行にならない限り、もう利用する気は無い。

家からバス停まで行くのに時間がかかる

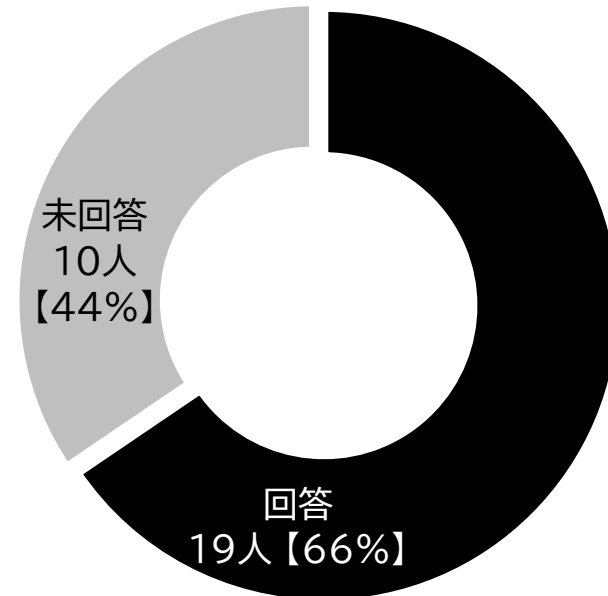
CONTENTS04 アンケート回答数(保護者)

■回答数及び回答割合

	該当人数	回答人数	回答率
中1	7	4	57%
中2	6	3	50%
中3	6	4	67%
高1	5	2	40%
高2	7	3	43%
高3	7	3	43%
合計	38	19	50%
保護者	29	19	66%
合計 (中高生&保護者)	67	38	57%

▶アンケート回答数(保護者)

・回答 ・未回答



保護者

66%の回答率

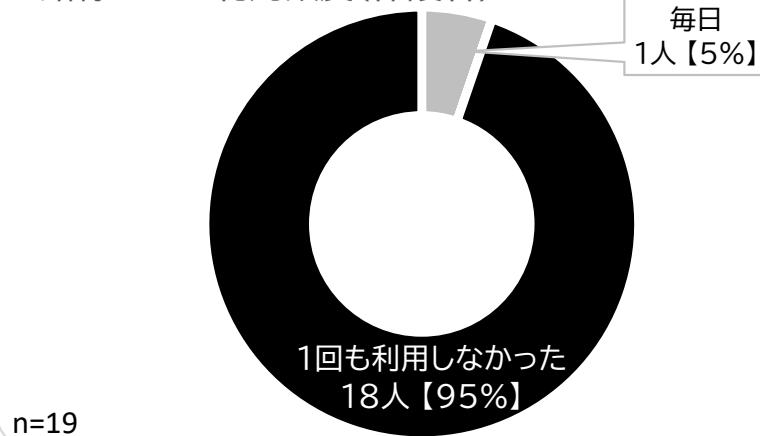


- ・モニター参加者保護者(家庭数)29名に対し、アンケート回答数19名であった為、モニター参加者の半数以上の方がアンケートに協力していただいている。
- ・路線バスモニター対象の中高生だけではなく、保護者アンケートを実施したことにより、保護者からの視点での意見を集めることができた。
- ・保護者は中高生の路線バス利用に「通学の送迎を担う、負担軽減につながることを」期待していることがアンケートによってわかった。

CONTENTS05 調査結果(保護者)

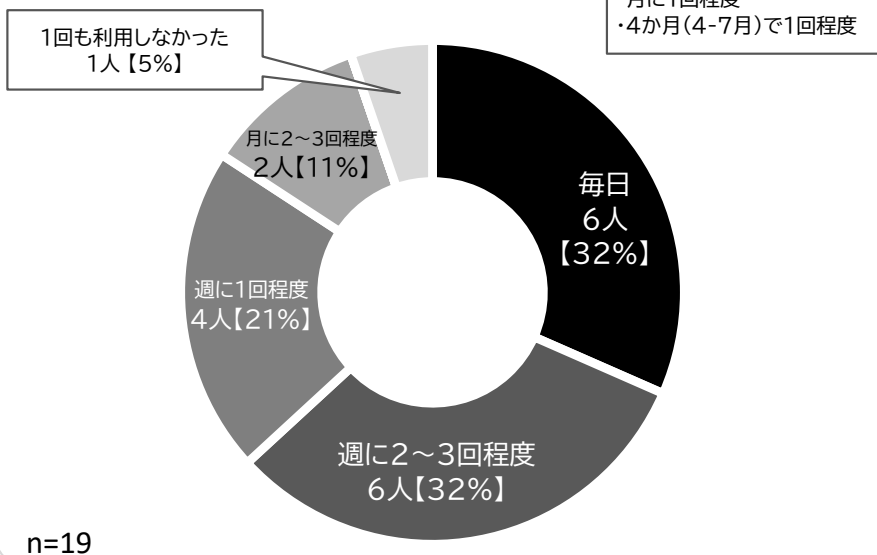
問1 ■4月～7月のあなた(保護者自身)の路線バス利用頻度を教えてください。

▶路線バスの利用頻度(保護者)



問2 ■4月～7月のお子さまの路線バス利用頻度を教えてください。

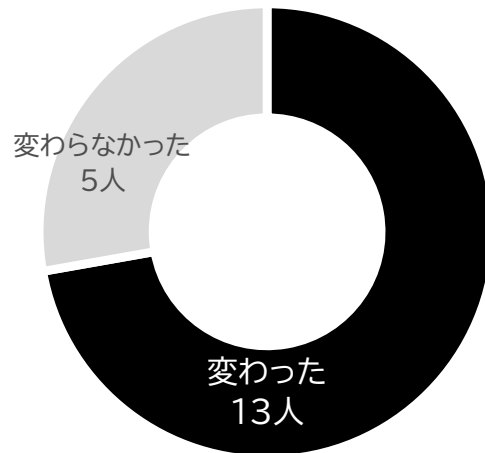
▶路線バスの利用頻度(お子さま)



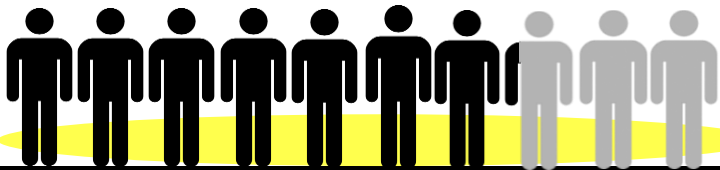
・中高生の回答の乗車利用頻度と回答に少し差異があるものの、
おおよそ同じ結果である。

問3 ■お子さまが路線バス通学することによって
家族の方の生活リズムは変わりましたか？
(問2で「1回も利用しなかった」以外を選択された方)

▶家族の生活リズムの変化
(問2で「1回も利用しなかった」以外を選択)



72%が生活リズムに変化あり



・路線バス通学することによって、多くの方が
生活リズムの変化があったことがわかる。
お子さまにとっても保護者にとっても、
時間に余裕が出来ている。

問4 ■生活リズムはどのように変わりましたか？
(問3で「変わった」を選択された方)

自分で通学してくれるようになった

朝も6時50分のバスのため、駅まで送迎しなくてよくなり、
貴重な時間を有効に使えて助かった(他に子どもがいるため)

学校・駅まで送迎しなくてよくなったため、時間に余裕が出来た。

学校への往復時間がなくなり、余裕ができた

駅まで送迎しなくてよくなったため、時間に余裕ができた。

迎えの時間などに余裕ができた。

駅まで送らなくていいのですこし楽

朝20分ほど家を出る時間が遅くなった為ゆっくりできた。

朝ゆっくりできるようになった

送迎の負担が大きく減った

送迎の負担が減ったため、習い事にスムーズに行くことが出来た

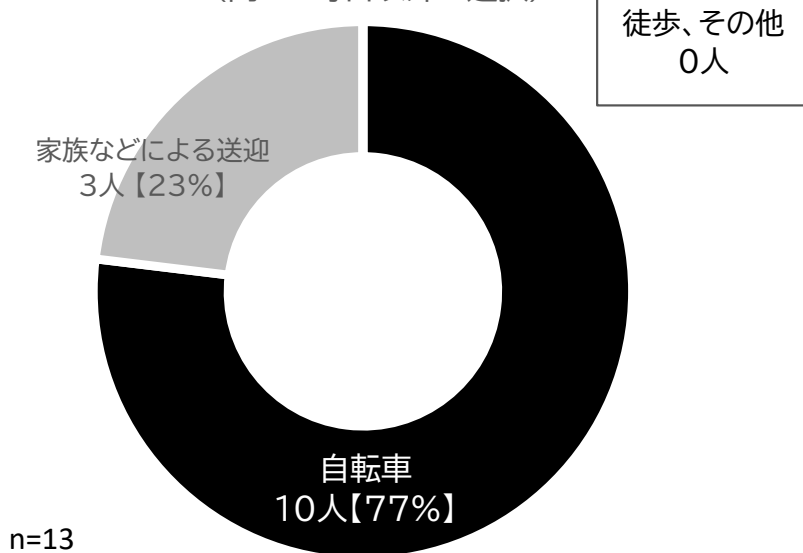
生活リズムが少し早めの時間になり、自分で時間を気にしながら
準備が出来、自立することが出来た。(こども)

仕事の時間より早くに送ることが多かったので、
大変助かっていた。往復しなくて済んだ。

今年度より中学生になり、最寄りのバス停までの送迎でよいので
送り迎えや、バス停までの自転車の距離が短くなって助かった。

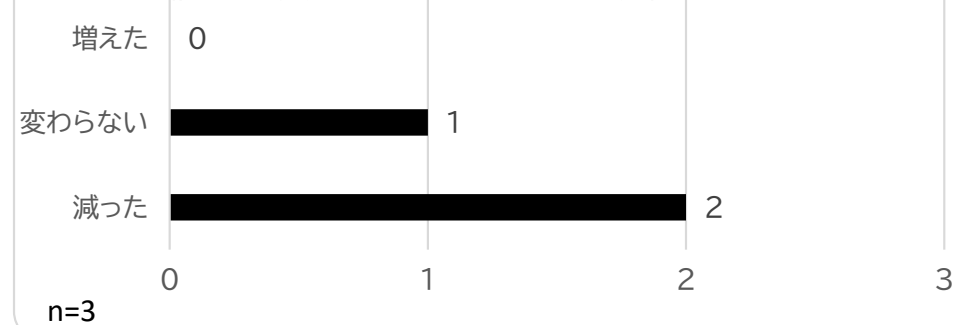
問5 ■お子さまは路線バスを利用しないときは、どのような手段で通学していますか？
(問2で「毎日」以外を選択された方)

▶路線バスを利用しないときの通学手段
(問2で毎日以外を選択)



問6 ■バス通学モニター開始以前と比べ、学校・駅まで送迎する回数は減りましたか？
(問5で「家族などによる送迎」を選択された方)

▶学校・駅までの送迎回数について
(問5で家族などによる送迎を選択)



問6-1 ■お子さまが路線バス通学をすることにより、ご家族の送迎の負担は減りましたか？
(問5で「家族などによる送迎」を選択された方)

▶家族の送迎の負担について
(問5で家族などによる送迎を選択)

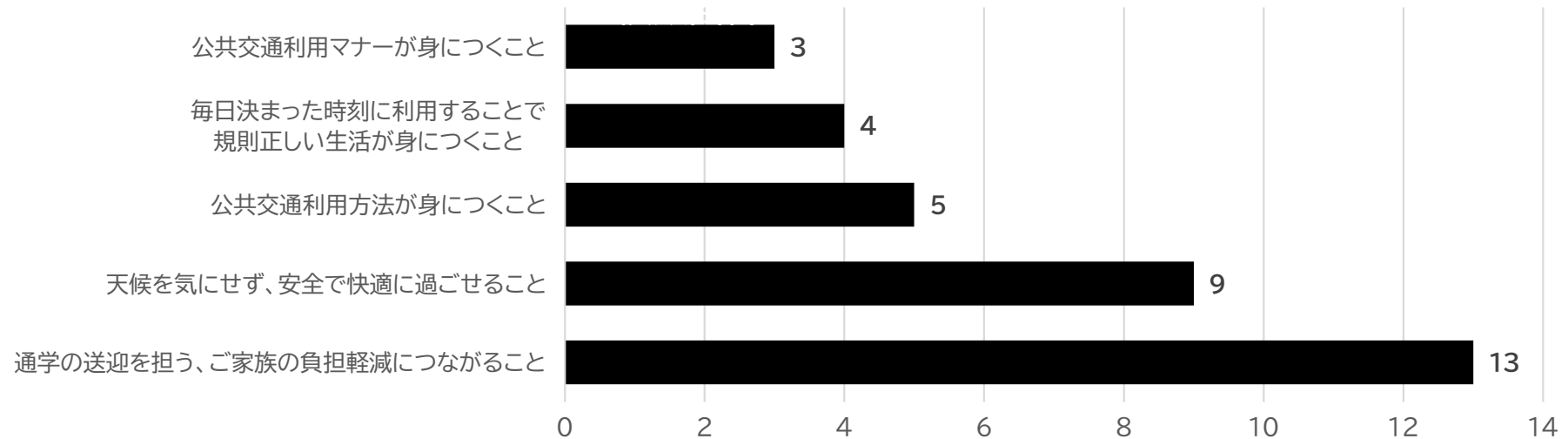


- ・路線バスを毎日利用していない中高生は、天候都合で自転車とバスを使い分けていることが、中高生向けのアンケートでわかった。
- ・家族の送迎について、送迎回数減、負担減の傾向にある。
(送迎回数:変わらない・負担:増えたと回答は同一人物であり、お子さまの路線バス利用回数は週1回程度である。)

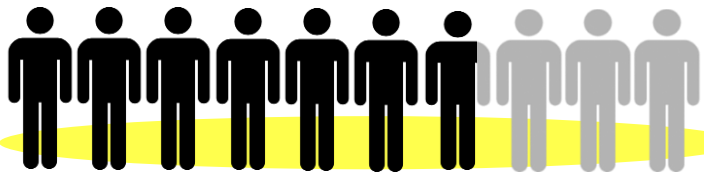
CONTENTS05 調査結果(保護者)

問7 ■お子さまが通学の際に、公共交通を利用することにどのようなことを期待しますか？

▶お子さまが通学の際に、公共交通を利用することにどのようなことを期待しますか ※複数回答可



68%の保護者が送迎の負担軽減を期待



・通学の際に、公共交通を利用することに対し、19人中13人(68%)の保護者が、送迎の負担軽減を期待している。
その他、公共交通に対し、「安全性」「乗車の快適さ」を求めていることがわかる。

CONTENTS05 調査結果(保護者)

問8 ■あなたが感じているバス路線の理由や存在価値を5段階で評価してください。

	非常に そう思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
通勤、通学、通院など、 自分自身にとって重要な交通手段	10	5	2	1	1
自動車を運転できない人にとって 重要な交通手段	14	5	0	0	0
将来、自分が自動車など、 運転できなくなった場合の 重要な交通手段	13	2	2	2	0
バス利用は、 交通渋滞の緩和に効果がある	3	5	6	4	1
バス利用は、 交通事故の減少に効果がある	3	10	6	0	0
バス利用は、 CO2等排出量の削減に効果がある	4	9	6	0	0
普段はバスを利用していないが、 いつでも利用できるという 安心感がある	6	9	3	1	0
乗車中に本を読むなど、 目的地まで快適に移動できる	6	9	1	3	0
バス路線の存在自体が、 まちの活性化につながる	6	10	2	1	0

▶路線バス利用のメリットや意義

通勤、通学、通院など、
自分自身にとって重要な交通手段



自動車を運転できない人にとって
重要な交通手段



将来、自分が自動車など、
運転できなくなった場合の重要な交通手段



バス利用は、
交通渋滞の緩和に効果がある



バス利用は、
交通事故の減少に効果がある



バス利用は、
CO2等排出量の削減に効果がある



普段はバスを利用していないが、
いつでも利用できるという安心感がある



乗車中に本を読むなど、
目的地まで快適に移動できる



バス路線の存在自体が、
まちの活性化につながる



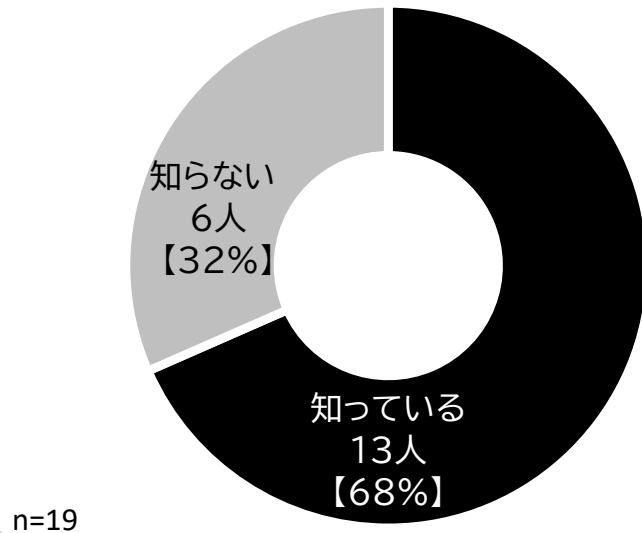
n=19

0% 20% 40% 60% 80% 100%

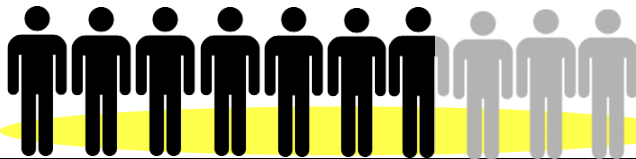
- ・路線バス利用のメリットや意義を環境問題や交通問題で考えた時には、メリットや意義をあまり感じていないことがわかるが、自分事として考えた時には、路線バスは必要だと感じている方が多い。
- ・全体を見ると中高生と同じような回答割合になるが、「バス路線の存在自体が、まちの活性化につながる」の設問に対し、「まあ思う」以上の回答率が中高生の回答割合と異なる。

問9 ■市内バスの移動経路や発着・乗換時刻をインターネットで検索できることを知っていますか？

▶神姫バスNaviについて



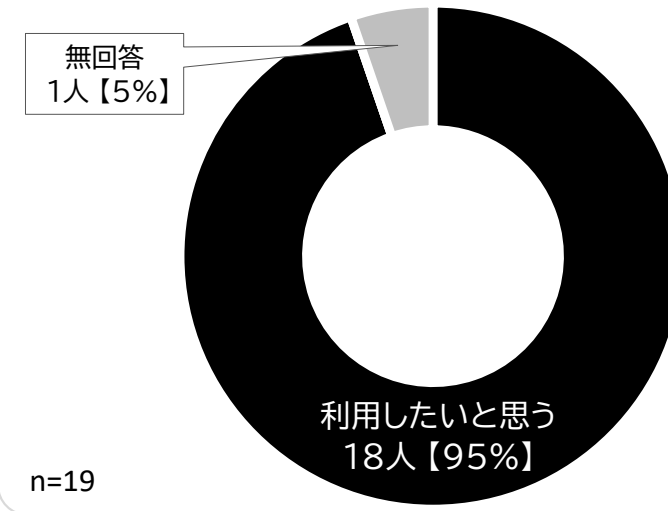
68%が知っていると回答！



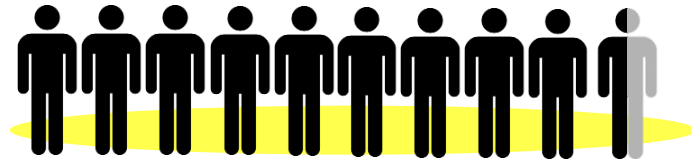
- ・多様な機会バス利用をしてもらうことで、アプリ利用が増え、認知度が高まることが期待できる。
- ・広報発信などを通じ、バス路線は地域の将来の為維持すべき基幹交通ネットワークという認識を高める。

問10 ■通学モニターで参加していただいたバス路線を今後も利用したいと思いますか？

▶路線バスを今後も利用したいと思いますか



95%が今後も利用したいと回答！



- ・社会実験バス路線を今後も利用したい方が大半である。
- ・中高生のみならず、保護者や地域の方々にも積極的に路線バスを利用してもらうよう、広報活動や利便性の向上を図る必要がある。

CONTENTS05 調査結果(保護者)

問11 ■通学モニターとして参加していただいたことで、路線バス通学や公共交通について、ご家族の中や保護者同士で話題になったことについて

悪天候の日にはありがたいと思いました。

免許返納した高齢者等交通弱者の移動手段としても公共交通は大切にしたいと思いました。

自宅から学校までの距離が長い(8キロ)ため、事故・熱中症の心配がある中、バス通学出来ることは親にとって安心に繋がるのでとてもありがたく感じています。

今回の社会実験でバスの便利さや安全性など非常に助かったが、我が子の乗る時間帯にバスがない。(行きは乗れても帰りがない場合も)結局、送迎するか自転車があるので増便ありでこそ、毎日利用できる。利用数により運行が決定されると思うが、朝・夕の増便を期待したい。

朝の通学はちょうどよい時間があるので利用しやすいですが、帰りのバスの時間で、社会実験の時間がなくなってしまうのは不便に感じる。子供の帰る時間が日によってバラバラなので夕方の時間は細かく時間があるほうがよいです。

バス停が家から遠いのでそこだけが不便と感じました。

8月からも続けてほしいと強く思った。高3なので、今後どのように利用できるかわからないが、4月～7月まで大変助かった。通学モニターとして利用させていただきありがとうございました。

子育て支援として高等学校まで最寄り駅まで無償化してほしい。1番お金の掛かるところなので是非ともお願いします。遠距離区域になると一緒にバスを利用する友達も少なくなり、結局自転車で行きたい。と希望する子もいる。公民館などを軸にせず、もっとエリアを拡大してほしい。そうするともっと利用する。

家族の送迎が減ることで、負担の軽減になること。バスで帰ってくることで帰宅の心配が減ること。この取り組みが引き続き続くよう希望すること。

電車との連携が取れないことがあった。バスが遅れ、電車は一時間待ちで遅刻。その時の対応にも疑問が残ります。遅延の時にスムーズに証明書を出すなどの対応が望まれます。また電車自体が一時間に一本しかないので少し余裕を持ったダイヤなどを組んで欲しかったです。電車に連携しない中学校の送迎については助かりました。

本数が少ないのと、テストなど学校と連携したダイヤを柔軟に組んでいただけるとありがたいです。

悪天候の日や暑い日はバス通学で安全に通学することができて良かったと思う。下校時にバスがなく仕方なく自転車で行ったり送迎が必要になる事があり不便を感じた。

天候が悪いときなど利用ができて安心できた。バス停に雨除けの屋根などがあれば、雨のひどい日など濡れずに待てるのではないかと考えた。